

チェルノブイリ原発事故の際、妊娠中だった母親から生まれた子どもに関する調査



調査対象

- ①胎内被ばくした子ども138人と親（胎内被ばく群：被ばくした集団）
- ②ベラルーシの非汚染地域の子ども122人と親
（対照群：被ばくしていない集団）

子どもの精神発達	6～7歳時点		10～11歳時点	
	①胎内被ばく群	②対照群	①胎内被ばく群	②対照群
言語障害	18.1%	8.2%	10.1%	3.3%
情緒障害	20.3%	7.4%	18.1%	7.4%
IQ=70～79	15.9%	5.7%	10.1%	3.3%

- 精神発達において、胎内被ばく群と対照群との間に有意な差がみられたが、被ばくした線量と知能指数の間に相関がなかったことから、避難に伴う社会的要因が原因と考えられた
- 親の極度の不安と子どもの情緒障害の間には相関が見られた



妊娠中の放射線被ばくは、胎児及び成長後の小児の知能指数に直接影響しない

出典：Kolominsky Y et al., J Child Psychol Psychiatry, 40（2）:299-305, 1999